

**2026 年度
シラバス (授業計画)**

多摩リハビリテーション学院専門学校

作業療法学科
授業科目

作業療法学科 (Occupational Therapy)

ディプロマ・ポリシー (卒業までに身につけるべき能力)

専門職としての態度・知識・技術を身につけ、対象者が抱える問題に対して真摯に向き合い、解決しようとする努力し続ける人材を育成する。

	講義	実習
3 学 年	到達 目標	対象者の気持ちを考え、何ができるかを模索、熟考、実行することを目指す。
	選択必修科目： 臨床実習特論／基礎分野演習 専門分野演習／総合演習	臨床実習 【身体障害領域／9週間】 【精神障害領域／9週間】 実習施設で対象者に評価・治療計画を 実践し、その効果判定の再評価・問題 点の再検討、治療プログラムの変更を 行います。 ※実習後に身体・精神障害領域での症 例報告会を予定しています。
2 学 年	到達 目標	1年次に学んだコミュニケーション能力・基礎知識を基に、評価技術・治療 技法を総合的に考え、実践できる力の獲得を目指す。
	基礎科目： コミュニケーション論Ⅲ 専門基礎科目： 内科学／整形外科学／神経内科学／小児科学 専門科目： 基礎作業学Ⅱ／作業療法評価法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／高次神経学 相互交流演習Ⅱ／作業治療学Ⅰ・演習Ⅰ／作業治療学Ⅱ・ 演習Ⅱ／作業療法治療学Ⅲ・演習Ⅲ／作業治療学Ⅳ／日常生 活活動論演習／義肢装具学／生活環境論／地域作業療法学／ 生活行為向上マネジメント演習	評価実習 【身体障害領域／3週間】 対象者の捉え方を学びます。実習施設 で評価を行い、問題点を抽出、治療プ ログラムを立案します。 【精神障害領域／2週間】 精神障害領域における作業療法を体験 し、対象者との接し方・記録方法を学 びます。
1 学 年	到達 目標	自主的な学習態度、医療職としての心構え・コミュニケーション能力を身に つけ、作業療法士として必要な態度、知識の獲得を目指す。
	基礎科目： 医療倫理学／統計学／心理学概論／生物学 医学英語／コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ 専門基礎科目： 解剖学Ⅰ・Ⅱ／生理学Ⅰ・Ⅱ／運動学Ⅰ・Ⅱ／運動学実習 基礎医学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／人間発達学／病理学概論 臨床心理学／精神医学Ⅰ・Ⅱ／総合臨床医学 リハビリテーション概論／作業療法概論Ⅰ・Ⅱ 専門科目： 基礎作業学Ⅰ／基礎作業学演習／相互交流演習Ⅰ 作業療法管理学Ⅰ／作業療法評価法Ⅰ／日常生活活動論	見学実習【1週間】 通所リハビリテーション又は訪問リハ ビリテーションでの見学を行い、作業 療法士の役割、他職者との連携、支援 体制について学びます。 ※実習後グループワークで情報共有・ 情報交換を行い、報告会で発表します。

作業療法学科 教育課程

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	授業科目	授業形式	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年			
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	14	医療倫理学	講義	2	30	2	30						
			統計学	講義	2	30	2	30						
			心理学概論	講義	2	30	2	30						
			生物学	講義	2	30	2	30						
			医学英語	講義	2	30	2	30						
			コミュニケーション概論Ⅰ	講義	2	30	2	30						
			コミュニケーション概論Ⅱ	演習	1	30	1	30						
合計	14			14	240	13	210	1	30	0	0			
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	12	解剖学Ⅰ	講義	2	30	2	30						
			解剖学Ⅱ	講義	2	30	2	30						
			生理学Ⅰ	講義	2	30	2	30						
			生理学Ⅱ	講義	2	30	2	30						
			運動学Ⅰ	講義	2	30	2	30						
			運動学Ⅱ	講義	2	30	2	30						
			運動学実習	演習	1	30	1	30						
			基礎医学演習Ⅰ	演習	1	30	1	30						
			基礎医学演習Ⅱ	演習	1	30	1	30						
			基礎医学演習Ⅲ	演習	1	30	1	30						
			人間発達学	講義	2	30	2	30						
			基礎分野演習	演習	4	120						4	120	
			合計	12			22	450	18	330	0	0	4	120
			疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	14	病理学概論	講義	2	30	2	30				
					臨床心理学	講義	2	30	2	30				
内科学	講義	2			30			2	30					
整形外科	講義	2			30			2	30					
神経内科学	講義	2			30			2	30					
精神医学Ⅰ	講義	2			30	2	30							
精神医学Ⅱ	講義	2			30	2	30							
小児科学	講義	2			30			2	30					
総合臨床医学	講義	2			30	2	30							
合計	14			18	270	10	150	8	120	0	0			
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	2	30	2	30							
		作業療法概論Ⅰ	講義	1	15	1	15							
		作業療法概論Ⅱ	講義	1	15	1	15							
合計	4			4	60	4	60	0	0	0	0			
専門分野	基礎作業療法	5	基礎作業学Ⅰ	講義	2	30	2	30						
			基礎作業学Ⅱ	講義	2	30			2	30				
			基礎作業学演習	演習	2	60	2	60						
	合計	5			6	120	4	90	2	30	0	0		
	作業療法管理学	2	作業療法管理学Ⅰ	講義	1	15	1	15						
			作業療法管理学Ⅱ	講義	1	15					1	15		
	合計	2			2	30	1	15	0	0	1	15		
	作業療法評価学	5	作業療法評価法Ⅰ	演習	2	60	2	60						
			作業療法評価法Ⅱ	演習	2	60			2	60				
			作業療法評価法Ⅲ	演習	2	60			2	60				
			作業療法評価法Ⅳ	演習	2	60			2	60				
	合計	5			8	240	2	60	6	180	0	0		
	作業療法治療学	19	相互交流演習Ⅰ	演習	1	30	1	30						
			相互交流演習Ⅱ	演習	1	30			1	30				
			作業療法治療学Ⅰ	講義	2	30			2	30				
作業療法治療学演習Ⅰ			演習	1	30			1	30					
作業療法治療学Ⅱ			講義	2	30			2	30					
作業療法治療学演習Ⅱ			演習	1	30			1	30					
作業療法治療学Ⅲ			講義	2	30			2	30					
作業療法治療学演習Ⅲ			演習	1	30			1	30					
作業療法治療学Ⅳ			講義	2	30			2	30					
日常生活活動論			講義	2	30	2	30							
日常生活活動演習			演習	1	30			1	30					
高次神経学			講義	2	30			2	30					
義肢装具学			講義	2	30			2	30					
専門分野演習	演習	4	120						4	120				
合計	19			24	510	3	60	17	330	4	120			
地域作業療法	4	生活環境論	演習	2	60			2	60					
		地域作業療法	講義	2	30			2	30					
		生活行為向上マネジメント演習	演習	1	30			1	30					
合計	4			5	120	0	0	5	120	0	0			
臨床実習	22	見学実習	実習	1	45			1	45					
		評価実習	実習	5	225			5	225					
		臨床実習ケーススタディ	演習	1	30					1	30			
		総合臨床実習Ⅰ	実習	9	405					9	405			
		総合臨床実習Ⅱ	実習	9	405					9	405			
合計	22			25	1110	1	45	5	225	19	840			
総合計					128	3150	56	1020	44	1035	28	1095		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	医療倫理学	高山 裕 非常勤講師・基幹教員	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理の基本原則を理解し、医療行為が持つ倫理的・法的・社会的側面を認識する力を養う。 ・生命倫理の歴史や背景を知り、多様な価値観が存在することを理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的課題の構造的分析能力を身につけることができる。 ・根拠に基づいた論理的な考察と論証力を身につけることができる。 ・医療人としての倫理的行動指針を提示することができる。 		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション・倫理学と医療倫理学の概要について 第 2 回：医療倫理について 第 3 回：医療安全と教育（アカデミックハラスメント） 第 4 回：専門職の身体接触（セクシャルハラスメント） 第 5 回：守秘義務と情報共有 第 6 回：精神障害者の強制入院 第 7 回：認知症患者の身体拘束と QOL 第 8 回：宗教信念と医療 第 9 回：医療資源の配分（トリアージ） 第 10 回：脳死と臓器移植 第 11 回：先端技術（遺伝子治療、再生医療など） 第 12 回：出生前診断と選択 第 13 回：尊厳死・安楽死 第 14 回：自己研鑽と倫理 第 15 回：定期試験		
教科書	資料配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義および演習を取り入れます。演習では意見交換のみならず、記録や発表など積極的な授業参加を期待します。		
教員紹介	哲学・倫理学に精通した講師、および臨床経験を経た基幹教員にて授業を展開します。		

2026 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション 概論Ⅱ	庄司麻美	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・対人援助職として望ましいコミュニケーション力を高めるために、専門職として求められるコミュニケーション能力の活用方法を学ぶ。 ・自己への理解を深め、自己管理能力を高める。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基礎を理解した上で応用的な実践ができる。 ・自己の性格や対人スキルの傾向、態度を客観的に認識できる。 ・現実的な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立て実行できる。 		
授業計画	第 1 回：「話す」技術「聴く」技術 第 2 回：自律した自分になるために 第 3 回：人間関係と対人コミュニケーション 第 4 回：対人コミュニケーション分析 第 5 回：人間関係の基本「ストローク」 第 6 回：臨床で役立つコミュニケーションの技法 第 7 回：作業療法士の観察視点 第 8 回：医療面接の在り方 第 9 回：情報を得るためのコミュニケーション 第 10 回：他者から見た自分 第 11 回：コミュニケーション力の高め方 第 12 回：チーム・アプローチの基本構造 第 13 回：多職種連携とチーム医療 第 14 回：まとめ 第 15 回：定期試験		
教科書	山口美和：第 3 版「PT・OT・ST のためのコミュニケーション実践ガイド」医学書院 3,000 円＋税 他 適宜資料配布		
参考書	内山靖：「リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論」医歯薬出版 2,700 円＋税 諏訪茂樹：第 2 版「対人援助とコミュニケーション」中央法規 1,900 円＋税 他		
成績評価の方法・基準	課題提出 40%、ポートフォリオ 20%、筆記試験 40%		
授業の留意点・授業外の 学習活動など	作業療法士は対象者及び多職種と好ましい人間関係を保つために、他者や自分自身との向き合い方を丁寧に捉え考えていきます。授業を通して更なる自己の成長課題を見つけ、前向きに取り組みましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、対人援助者になるために習得すべき医療職としての基本的態度やマナー、作業療法士に求められる視点について講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																																													
作業療法学科	1 学年	前期	講義																																													
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																																													
専門基礎分野	生理学 I	脇 雅子	2 単位・30 時間																																													
授業の概要 (授業の目的)	将来、医療に携わる作業療法士にとって重要不可欠な学問である生理学を通し、ヒトの生体機能を学び理解する。																																															
授業の到達目標 (学生の行動目標)	細胞・神経・筋などを学び理解し、臨床で生かせる知識を習得する。																																															
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">第 1 回</td> <td style="width: 40%;">神経系のしくみ</td> <td style="width: 50%;">神経細胞とネットワーク</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>中枢神経系</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td></td> <td>中枢神経系</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td></td> <td>末梢神経系</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td></td> <td>末梢神経系</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>感覚のしくみ</td> <td>視覚</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>視覚・味覚・嗅覚</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td></td> <td>聴覚・平衡覚</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td></td> <td>聴覚・平衡覚・体性感覚</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>身体運動のしくみ</td> <td>骨格筋</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>血液のしくみ</td> <td>血液の成分・機能</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td></td> <td>血液細胞</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>循環のしくみ</td> <td>心臓</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td></td> <td>心臓</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>			第 1 回	神経系のしくみ	神経細胞とネットワーク	第 2 回		中枢神経系	第 3 回		中枢神経系	第 4 回		末梢神経系	第 5 回		末梢神経系	第 6 回	感覚のしくみ	視覚	第 7 回		視覚・味覚・嗅覚	第 8 回		聴覚・平衡覚	第 9 回		聴覚・平衡覚・体性感覚	第 10 回	身体運動のしくみ	骨格筋	第 11 回	血液のしくみ	血液の成分・機能	第 12 回		血液細胞	第 13 回	循環のしくみ	心臓	第 14 回		心臓	第 15 回	定期試験	
第 1 回	神経系のしくみ	神経細胞とネットワーク																																														
第 2 回		中枢神経系																																														
第 3 回		中枢神経系																																														
第 4 回		末梢神経系																																														
第 5 回		末梢神経系																																														
第 6 回	感覚のしくみ	視覚																																														
第 7 回		視覚・味覚・嗅覚																																														
第 8 回		聴覚・平衡覚																																														
第 9 回		聴覚・平衡覚・体性感覚																																														
第 10 回	身体運動のしくみ	骨格筋																																														
第 11 回	血液のしくみ	血液の成分・機能																																														
第 12 回		血液細胞																																														
第 13 回	循環のしくみ	心臓																																														
第 14 回		心臓																																														
第 15 回	定期試験																																															
教科書	高松 研監修「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖整理 (第 3 版)」 医学映像教育センター 3,800 円+税																																															
参考書																																																
成績評価の方法・基準	区切りの良い所で小テストを実施します。前もって告知します。小テストは定期試験に出題されるものもあります。評価：定期試験 100%																																															
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業の進行によりシラバス内容の変更があります。授業時に告知します。必ず教科書を持参して下さい。いねむり厳禁です。																																															
教員紹介	医学部における長年の研究、教育の傍ら専門学校において作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、救急救命士の教育に携わってきた経験をもとに授業を進めます。																																															

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																																													
作業療法学科	1 学年	後期	講義																																													
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																																													
専門基礎分野	生理学Ⅱ	脇 雅子	2 単位・30 時間																																													
授業の概要 (授業の目的)	将来、医療に携わる作業療法士にとって重要不可欠な学問である生理学を通し、ヒトの生体機能を学び理解する。																																															
授業の到達目標 (学生の行動目標)	循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、内分泌系、代謝を学び理解し、臨床で生かせる知識を習得する。																																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>循環のしくみ</td> <td>血液の循環と圧力</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>血液の循環と圧力</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>循環呼吸のしくみ</td> <td>リンパ系 ガス交換、運搬</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>呼吸のしくみ</td> <td>ガスの運搬</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>呼吸消化器のしくみ</td> <td>呼吸運動、咽頭、食道の機能</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>消化器のしくみ</td> <td>胃、小腸</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td></td> <td>胃、小腸、大腸</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td></td> <td>大腸、肝臓、膵臓</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>代謝・排泄のしくみ</td> <td>代謝、腎臓</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>ホルモンのしくみ</td> <td>主なホルモン</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td></td> <td>主なホルモン</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>ホメオスタシス</td> <td>酸塩基平衡</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td></td> <td>体温</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>防御のしくみ</td> <td>生体防御、免疫</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>			第 1 回	循環のしくみ	血液の循環と圧力	第 2 回		血液の循環と圧力	第 3 回	循環呼吸のしくみ	リンパ系 ガス交換、運搬	第 4 回	呼吸のしくみ	ガスの運搬	第 5 回	呼吸消化器のしくみ	呼吸運動、咽頭、食道の機能	第 6 回	消化器のしくみ	胃、小腸	第 7 回		胃、小腸、大腸	第 8 回		大腸、肝臓、膵臓	第 9 回	代謝・排泄のしくみ	代謝、腎臓	第 10 回	ホルモンのしくみ	主なホルモン	第 11 回		主なホルモン	第 12 回	ホメオスタシス	酸塩基平衡	第 13 回		体温	第 14 回	防御のしくみ	生体防御、免疫	第 15 回	定期試験	
第 1 回	循環のしくみ	血液の循環と圧力																																														
第 2 回		血液の循環と圧力																																														
第 3 回	循環呼吸のしくみ	リンパ系 ガス交換、運搬																																														
第 4 回	呼吸のしくみ	ガスの運搬																																														
第 5 回	呼吸消化器のしくみ	呼吸運動、咽頭、食道の機能																																														
第 6 回	消化器のしくみ	胃、小腸																																														
第 7 回		胃、小腸、大腸																																														
第 8 回		大腸、肝臓、膵臓																																														
第 9 回	代謝・排泄のしくみ	代謝、腎臓																																														
第 10 回	ホルモンのしくみ	主なホルモン																																														
第 11 回		主なホルモン																																														
第 12 回	ホメオスタシス	酸塩基平衡																																														
第 13 回		体温																																														
第 14 回	防御のしくみ	生体防御、免疫																																														
第 15 回	定期試験																																															
教科書	高松 研監修「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖整理 (第 3 版)」 医学映像教育センター 3,800 円＋税																																															
参考書																																																
成績評価の方法・基準	区切りの良い所で小テストを実施します。前もって告知します。小テストは定期試験に出題されるものもあります。評価：定期試験 100%																																															
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業の進行によりシラバス内容の変更があります。授業時に告知します。必ず教科書を持参して下さい。いねむり厳禁です。																																															
教員紹介	医学部における長年の研究、教育の傍ら専門学校において作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、救急救命士の教育に携わってきた経験をもとに授業を進めます。																																															

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学 I	横濱 秀征	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の動作に伴う解剖的特徴を理解する。 ・ 上肢帯の運動メカニズムを理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節構造、運動特性について説明できる。 ・ 肩関節運動に関わる特徴を説明できる。 ・ 上肢、手指の運動に関わる特徴を説明できる。 		
授業計画	<p>第 1 回： オリエンテーション・運動学とは</p> <p>第 2 回： 関節構造と機能①</p> <p>第 3 回： 関節構造と機能②</p> <p>第 4 回： 骨格筋の構造と機能① <u>＝小テスト①＝</u></p> <p>第 5 回： 骨格筋の構造と機能②</p> <p>第 6 回： 運動力学について <u>＝小テスト②＝</u> (身体のとこ・トルク・モーメントについて)</p> <p>第 7 回： 肩甲骨の働きについて</p> <p>第 8 回： 肩関節の働きについて①</p> <p>第 9 回： 肩関節の働きについて②</p> <p>第 10 回： 肘関節・前腕部の働きについて① <u>＝小テスト③＝</u></p> <p>第 11 回： 肘関節・前腕部の働きについて②</p> <p>第 12 回： 手関節・手部の働きについて① <u>＝小テスト④＝</u></p> <p>第 13 回： 手関節・手部の働きについて②</p> <p>第 14 回： 上肢帯の運動学について (復習) <u>＝小テスト⑤＝</u></p> <p>第 15 回： 授業内容まとめ</p>		
教科書	中村隆一ら：基礎運動学 第 7 版 医歯薬出版、7,200+税		
参考書	からだが見える(人体の構造と機能) 第 1 版 メディックメディア 3,900 円+税		
成績評価の方法・基準	小テスト 50 点 期末試験 50%：国家試験形式を含む		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業資料を配布します。授業用のファイルを作成してください。解剖学・生理学と共にリハ医学の基礎となる学問ですので、必ず復習をすること。		
教員紹介	回復期病棟で身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、評価の基礎となる知識として、身体構造・働きについて教授します。 質問等あれば、 h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学Ⅱ	横濱 秀征	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔面、体幹、下肢の解剖的特徴を踏まえた運動機能を理解する。 ・ 歩行動作について理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節構造、運動特性について説明できる。 ・ 食事動作、呼吸運動に関わる特徴を説明できる。 ・ 歩行動作に関わる特徴を説明できる。 		
授業計画	<p>第 1 回： オリエンテーション ・運動学習について</p> <p>第 2 回： 顔面の運動、頸部の運動について</p> <p>第 3 回： 体幹（胸郭）の運動、呼吸運動について</p> <p>第 4 回： 股関節の働きについて① <u>＝小テスト①＝</u></p> <p>第 5 回： 股関節の働きについて②</p> <p>第 6 回： 膝関節の働きについて① <u>＝小テスト②＝</u></p> <p>第 7 回： 膝関節の働きについて②</p> <p>第 8 回： 足関節の働きについて① <u>＝小テスト③＝</u></p> <p>第 9 回： 足関節の働きについて②</p> <p>第 10 回： 姿勢・バランスについて①<u>＝小テスト④＝</u></p> <p>第 11 回： 姿勢・バランスについて②</p> <p>第 12 回： 歩行動作について① <u>＝小テスト⑤＝</u></p> <p>第 13 回： 歩行動作について②</p> <p>第 14 回： 下肢・体幹の運動学について（復習） <u>＝小テスト⑥＝</u></p> <p>第 15 回： 授業内容まとめ</p>		
教科書	中村隆一ら：基礎運動学 第 7 版 医歯薬出版、7,200+税		
参考書	からだが見える(人体の構造と機能) 第 1 版 メディックメディア 3,900 円+税		
成績評価の方法・基準	小テスト 60 点 期末試験 40%：国家試験形式を含む		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業資料を配布します。授業用のファイルを作成してください。解剖学・生理学と共にリハ医学の基礎となる学問ですので、必ず復習をすること。		
教員紹介	回復期病棟で身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、評価の基礎となる知識として、身体構造・働きについて教授します。 質問等あれば、 h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	運動学演習	横濱 秀征	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<p>人体の動作とその仕組みを理解する。 評価の基礎となる動作観察・動作分析の視点を習得する。</p>		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<p>身体各部位の動きを説明できる。 動作観察・分析のポイントを説明できる。</p>		
授業計画	<p>第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 肩甲骨の働き（構成体と動きの確認） 第 3 回： 肩関節の働き（構成体と動きの確認） 第 4 回： 手部の働き（構成体と動きの確認） 第 5 回： 脊柱の働き（構成体と動きの確認） 第 6 回： 股関節の働き（構成体と動きの確認） 第 7 回： バランス能力について① 第 8 回： バランス能力について② ※グループワーク有 第 9 回： 姿勢観察とは 第 10 回： 姿勢観察（演習） 第 11 回： 姿勢反応と筋活動 ※課題レポート説明 第 12 回： 基本動作介助（寝返り・起き上がり） 第 13 回： 基本動作介助（起立・移乗） 第 14 回： 動作分析について 第 15 回： 授業内容まとめ</p>		
教科書	<p>症例動作分析 ～動画から学ぶ姿勢と動作～ 隈元 康夫 ヒューマンプレス 6,000 円+税</p>		
参考書	<p>中村隆一ら：基礎運動学 第 6 版補訂 医歯薬出版、6,800+税</p>		
成績評価の方法・基準	<p>課題レポート（50%） 定期試験（期末50%：国家試験形式） ※課題レポートは共通ルーブリックに沿って採点行う</p>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<p>運動学の内容が基礎となります。 必ず復習を行ってから授業に臨む事。 実技を行う際は、動きやすい服装で参加してください。</p>		
教員紹介	<p>回復期病棟で身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、評価の基礎となる姿勢観察の視点を教授します。 質問等あれば、h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。</p>		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習 I	岩田 一鷹	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の基礎となる身体構造（骨について）学習する。 ・骨の触診技法を理解・実施できるようになる。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の名称・構造について説明できる。 ・骨の各部位を触診できる。 		
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション（授業の進め方）</p> <p>第 2 回 上肢帯について</p> <p>第 3 回 上腕骨について</p> <p>第 4 回 前腕（橈骨・尺骨について）</p> <p>第 5 回 手根骨について</p> <p>第 6 回 頭蓋骨について</p> <p>第 7 回 椎骨について</p> <p>第 8 回 中間試験 ※第 2 回～第 7 回までの範囲</p> <p>第 9 回 寛骨について</p> <p>第 10 回 大腿骨について</p> <p>第 11 回 下腿（脛骨・腓骨）について</p> <p>第 12 回 足部について</p> <p>第 13 回 足根骨について</p> <p>第 14 回 期末試験 ※第 9 回～第 13 回までの範囲</p> <p>第 15 回 触診試験 ※全範囲が対象</p>		
教科書	<p>青木隆明：「機能解剖的触診技法 上肢」改訂第 2 版 メジカルビュー社 5,700 円+税</p> <p>青木隆明：「機能解剖的触診技法 下肢・体幹」改訂第 2 版 メジカルビュー社 5,700 円+税</p>		
参考書	<p>坂井 健雄監：「プロメウス 解剖学コアトラス」 医学書院 9,500 円+税</p>		
成績評価の方法・基準	<p>提出物：骨スケッチ（10%）・中間試験（30%）・ 期末試験（30%）・触診試験（30%）の合計で評価します。 ※3つの試験に関して、1つでも未受験の場合は再試験対象とします。</p>		
授業の留意点・授業外 の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて医学知識を学ぶ時期ですので、各自復習は必須です。 ・次回範囲の骨スケッチを行います。※2 回目より提出をしていきますので、事前にスケッチブックを準備してください。 ・触診は空き時間を利用して、各自で練習を行ってください。 ・実技を行う際は、動きやすい服装での参加をお願いします。 		
教員紹介	<p>急性期病院・回復期病院にて主に脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、がんの方々へ作業療法を実施してきました。我々の仕事は「人と関わって、触れてなんぼ」です。どんどん触れることに慣れてください。まずは骨の名称や部位名を覚えてから、触れ方を学んでいきましょう。</p>		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習Ⅱ	岩田 一鷹	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の基礎となる身体構造（筋について）を学習する。 ・筋の触診技法を理解、実施できるようになる。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の名称・起始・停止・支配神経・運動方向について説明できる。 ・筋の各部位を触診できる。 		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 肩甲骨に作用する筋 第 3 回 肩関節に作用する筋① 第 4 回 肩関節に作用する筋② 第 5 回 肘関節・前腕部に作用する筋 第 6 回 手関節に作用する筋 第 7 回 手指に作用する筋 第 8 回 中間試験 ※第 2 回～第 7 回までの範囲 第 9 回 臀部の筋 第 10 回 大腿後面の筋 第 11 回 大腿前面・内側の筋 第 12 回 下腿前外側面の筋 第 13 回 下腿後面の筋 第 14 回 期末試験 ※第 9 回～第 13 回までの範囲 第 15 回 触診試験 ※全範囲が対象		
教科書	青木隆明：「機能解剖的触診技法 上肢」改訂第 2 版 メジカルビュー社 5,700 円+税 青木隆明：「機能解剖的触診技法 下肢・体幹」改訂第 2 版 メジカルビュー社 5,700 円+税		
参考書	坂井 健雄監：「プロメテウス 解剖学コアトラス」 医学書院 9,500 円+税		
成績評価の方法・基準	小テスト：(10%)・中間試験 (30%)・ 期末試験 (30%)・触診試験 (30%) の合計で評価します。 <u>※3つの試験に関して、1つでも未受験の場合は再試験対象とします。</u>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・学習量が多いです。また毎回の授業開始時に小テストを実施します。各自予習をしてください。 <u>※範囲は事前にお伝えします。</u> ・触診は各自空き時間を利用して、各自で練習を行ってください。 ・実技を行う際は、動きやすい服装での参加をお願いします。 		
教員紹介	救急病院・リハビリテーション専門病院にて主に脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、がんの方々へ作業療法を実施してきました。前期で学習した骨の「どこに」筋が付着しているかを学びます。骨と同様に筋の付着部や走行を学び、筋触診を行っていきます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習Ⅲ	横濱秀征	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	医学の基礎となる身体構造・作用を理解する。 各神経系の評価を理解・実施できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	中枢・末梢・自律神経の構造について説明できる。 身体機能の検査方法を説明・実施できる。		
授業計画	第1回： オリエンテーション 第2回： 中枢神経系とは 課題：中枢神経について 第3回： 中枢神経（脳）について 第4回： 中枢神経（脊髄）について 第5回： 末梢神経系とは 課題：末梢神経について 第6回： 各末梢神経の働き 第7回： 自律神経とは 課題：自律神経について 第8回： 運動神経の働き 第9回： 反射検査（実技） 第10回： 感覚神経の働き 第11回： 感覚検査（実技） 第12回： 脳神経系① 第13回： 脳神経系② 第14回： 運動療法とニューロリハビリテーションについて 第15回： 授業内容まとめ		
教科書	病気がみえる vol.7 <u>脳・神経</u> 第2版 監修：尾上尚志ら MEDIC MEDIA 3,900 円+税		
参考書	解剖学、生理学、運動学で使用する教科書		
成績評価の方法・基準	提出課題 30%・定期試験 70% ※提出課題は指定した内容について、ループリックを用いて採点を行う。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	第2、5、7回の授業時に、課題の提出を行ってまいります。 <u>必ず事前学習を行ってきてください。</u> 実技を行う際は、動きやすい服装で参加してください。		
教員紹介	中枢神経疾患の治療を行ってきた経験の中で基礎となる知識を教授します。 質問等あれば、 h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学 I	中村晃一	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	精神障害の基礎的知識を学び、理解を深め、次の段階となる「精神領域作業治療学」に繋げていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・精神障害の基本的な病態を他者に説明ができるようになる。 ・精神障害に対し、どのような治療・支援が用いられているか、他者に説明できるようになる。 		
授業計画	<p>総論</p> <p>第1回：導入 メンタルヘルス（こころの健康）を考える 第2回：精神医学とは／精神障害における症状</p> <p>各論</p> <p>第3～8回：統合失調症 第9～11回：気分障害（大うつ病性障害）</p> <p>第12・13回：気分障害（双極性障害）</p> <p>定期試験（まとめ）</p> <p>第14回：定期試験に向けた振り返り 第15回：定期試験</p>		
教科書	先崎章：PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社、4,000円＋税		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100点満点）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	疑問に思った事があれば講義中でも挙手し質問してください。また、講義時間内に理解できなかったこと、納得できなかったことは、後回しにせず早い段階で担当教員に質問し、解決するようにしてください。		
教員紹介	精神科医療現場では、入院治療・外来治療・訪問支援・医療観察法に基づく支援・就労支援・家族支援・地域連携等を経験している。その経験に基づき、教科書的な内容に留まることなく、実際の精神障害者像を伝えていく。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学Ⅱ	中村晃一	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	精神障害の基礎的知識を学び、理解を深め、次の段階となる「精神領域作業治療学」に繋げていく。また、“精神障害＝目に見えにくい障害”という特性を踏まえ、当事者を取り巻く環境を理解し、より多角的に考察する力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・精神障害の基本的な病態を他者に説明ができるようになる。 ・精神障害に対し、どのような治療・支援が用いられているか、他者に説明できるようになる。 ・精神保健福祉法の基本的な内容について他者に説明できるようになる。 		
授業計画	<p>各 論</p> <p>第1・2回：依存症 第3回：パーソナリティ障害 第4・5回：摂食障害 第6・7回：神経症性障害 第8回：小児の精神障害 第9回：てんかん</p> <p>関連した知識</p> <p>第10回：当事者を取り巻く状況を考える 第11・12回：精神保健福祉法について 第13回：精神科に関わる他職種の仕事 第14回：精神領域で用いられる療法・手法</p> <p>定期試験（まとめ）第15回：定期試験</p>		
教科書	先崎章：PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社、4,000円＋税		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100点満点）。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	疑問に思った事があれば講義中でも挙手し質問してください。また、講義時間内に理解できなかったこと、納得できなかったことは、後回しにせず早い段階で担当教員に質問し、解決するようにしてください。		
教員紹介	精神科医療現場では、入院治療・外来治療・訪問支援・医療観察法に基づく支援・就労支援・家族支援・地域連携等を経験している。その経験に基づき、基本的な支援方法のみならず、事例に基づき現実的な支援に繋がるノウハウを伝えていく。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	総合臨床医学	山田由吏 各専任教員	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	健康、疾患及び障害への対応において、栄養管理、画像評価、救命処置、ならびに災害時における生活不活発病への対策等は不可欠な要素である。これを踏まえ、高度化・多様化する医療ニーズに対応できる客観的な理解力、観察力、判断力を養うため、栄養、画像、救急救命、および災害リハビリテーションの基礎知識を包括的に習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養、画像、救急救命についての基礎が理解できる。 ・ 災害支援の重要性が理解できる。避難所等の特殊環境において、対象者に応じた最適な介入を検討できる。 		
授業計画	第 1 回：災害リハビリテーション① 第 2 回：災害リハビリテーション② 第 3 回：栄養学① 第 4 回：栄養学② 第 5 回：栄養学③ 第 6 回：栄養学④ 第 7 回：画像① 第 8 回：画像② 第 9 回：画像③ 第 10 回：画像④ 第 11 回：救急救命① 第 12 回：救急救命② 第 13 回：救急救命③ 第 14 回：救急救命④ 第 15 回：期末試験 まとめ		
教科書	適宜、資料を配布します。		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績評価の方法・基準	定期試験 100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	進捗状況により講義順を変更することがありますが、その際は速やかに伝えます。		
教員紹介	各分野の実務経験を有する教員が、専門的知見に基づき実践的かつ分かりやすく講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	作業療法概論 I	庄司麻美	1 単位・15 時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法の誕生から現在に至る歴史、制度、業務内容等、大まかな概要についての基礎知識を学ぶ。 リハビリテーションにおける作業療法士の役割、実施過程を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法の歴史、成り立ちが理解できる。 ・ 作業療法の定義、作業療法の過程について説明できる。 ・ リハビリテーションにおける作業療法の役割が説明できる。 ・ 対象者を捉える為の「人—環境—作業」の関連性について理解できる。 		
授業計画	第 1 回 作業療法士という専門職の概要 第 2 回 作業療法の過程 第 3 回 作業療法の歴史・定義 第 4 回 健康と障害の概念と分類 第 5 回 作業療法部門の管理・運営 第 6 回 作業療法士に求められる資質と倫理 第 7 回 作業療法の理論 第 8 回 作業療法士の知識と技能		
教科書	長崎重信：作業療法学ゴールドマスター・テキスト第 3 版 作業療法概論 MEDICAL VIEW 4,400 円＋税		
参考書	齋藤さわ子：「作業療法士になろう！」青弓社 1,600 円＋税 葉山靖明：「だから、作業療法が大好きです」2,000 円＋税		
成績評価の方法・基準	小テスト 80%、レポート 20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	作業療法士に必要なことは、知識・技術・態度の 3 つを養うことです。 講義を通し、作業療法士としての基盤づくりを整えましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、作業療法士になるために必要な基礎知識について講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	作業療法概論Ⅱ	鎌田小百合	1 単位・15 時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の領域と対象について説明できる ・作業療法の教育体系について説明できる 		
授業計画	<p>第 1 回 作業療法の動向、生涯学習について</p> <p>第 2 回 身体領域における作業療法 (急性期)</p> <p>第 3 回 身体領域における作業療法 (回復期)</p> <p>第 4 回 精神領域における作業療法 (入院から地域生活支援)</p> <p>第 5 回 発達領域における作業療法 (肢体不自由)</p> <p>第 6 回 発達領域における作業療法 (自閉症)</p> <p>第 7 回 高齢者領域における作業療法</p> <p>第 8 回 各領域での作業療法の特性と共通点</p>		
教科書	長崎重信監修：ゴールドマスターテキスト作業療法学概論、メジカルビュー社、4,200 円		
参考書	二木淑子ら編集：標準作業療法学作業療法概論、医学書院、4,000 円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験 (100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業終わりにリフレクションフォームに入力してもらいます。作業療法で行っていることをより明瞭にしていく授業です。各領域の特性と、領域を超えた共通点を自分なりに考えてみてください。		
教員紹介	作業療法教育に 10 年以上携わる教員が、作業療法の基盤となる考え方について講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	講義・グループワーク
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎作業学 I	鎌田小百合	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・作業を効果的に且つ有意義に利用できるようになるために、作業が生活に与える影響や、作業と人との関係について学び、作業療法での作業の捉え方を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の分類、役割等の影響が理解でき、具体例を挙げることが出来る ・作業分析の目的と方法を身に付け、実践できる。 ・具体的な作業の段階付けや適応について考察できる。 		
授業計画	<p>第 1 回 作業科学① (作業の定義、作業の意味)</p> <p>第 2 回 作業科学② (作業バランス、役割)</p> <p>第 3 回 作業科学③ (作業の視点、作業的存在)</p> <p>第 4 回 限定的作業分析 (人間作業モデル)</p> <p>第 5 回 //</p> <p>第 6 回 限定的作業分析 (カナダ作業遂行モデル)</p> <p>第 7 回 //</p> <p>第 8 回 限定的作業分析 (川モデル)</p> <p>第 9 回 包括的作業分析 (山根による作業分析)</p> <p>第 10 回 //</p> <p>第 11 回 グループワーク① (作業計画)</p> <p>第 12 回 グループワーク② (作業体験)</p> <p>第 13 回 グループワーク③ (作業分析)</p> <p>第 14 回 グループワーク発表</p> <p>第 15 回 まとめ、集団について</p>		
教科書	<p>吉川ひろみ ; 「作業」って何だろう作業科学入門第 2 版, 医歯薬出版株式会社, 2,800 円+税</p> <p>長崎重信 : ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学, MEDICAL VIEW, 4,800 円+税</p>		
参考書	山根寛 ; ひとと作業・作業活動, 三輪書店, 3300 円+税		
成績評価の方法・基準	<p>復習シート 55%、グループ発表 25%、まとめレポート 20%</p> <p>*ループリックに沿って採点します</p>		
授業の留意点・授業外の学習活動など	単に専門用語を暗記するのではなく、理解したことを“自分なりに表現すること”を重要視します		
教員紹介	日本作業科学研究会に所属し、人の作業に焦点を当てた学際的な研究をしています。授業で各自が理解したことを他者に伝え共有することでより理解が深まり、考えの幅も広がります。後半にはグループワークの時間を多く取り入れますので、積極的に取り組んでください。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法																																																																
作業療法学科	1 学年	後期	演習																																																																
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数																																																																
選択必修分野	基礎作業学演習	中村晃一 庄司麻美	2 単位・60 時間																																																																
授業の概要 (授業の目的)	作業療法に用いられやすい手工芸等の技術を、実際に体験しながら習得し治療に応用する具体的な方法を学習する。																																																																		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸等の道具、材料、工程を把握し、一般的な方法で作業が実施できる。 ・身体を使い、小集団体験で得られる効果について理解ができる。 ・道具や材料を含めた治療環境を適切に管理し、安全面に考慮して使用することができる。 ・実施した各作業の特徴について説明することができる。 																																																																		
授業計画	<p><A グループ></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 2 回</td> <td>クラフトバンド手芸／籐細工</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>陶 芸</td> <td>第 4 回</td> <td>アイロンビーズ</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>陶 芸</td> <td>第 6 回</td> <td>革細工①</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>陶 芸</td> <td>第 8 回</td> <td>革細工②</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>陶 芸</td> <td>第 10 回</td> <td>献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>調 理</td> <td>第 12 回</td> <td>紙細工</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>スポーツレクリエーション</td> <td>第 14 回</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">実 技 (口 頭) 試 験</td> </tr> </table> <p><B グループ></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 2 回</td> <td>陶 芸</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>クラフトバンド手芸／籐細工</td> <td>第 4 回</td> <td>陶 芸</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>アイロンビーズ</td> <td>第 6 回</td> <td>陶 芸</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>革細工①</td> <td>第 8 回</td> <td>陶 芸</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>革細工②</td> <td>第 10 回</td> <td>献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>調 理</td> <td>第 12 回</td> <td>スポーツレクリエーション</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>紙細工</td> <td>第 14 回</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">実 技 (口 頭) 試 験</td> </tr> </table>			第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	クラフトバンド手芸／籐細工	第 3 回	陶 芸	第 4 回	アイロンビーズ	第 5 回	陶 芸	第 6 回	革細工①	第 7 回	陶 芸	第 8 回	革細工②	第 9 回	陶 芸	第 10 回	献立作成	第 11 回	調 理	第 12 回	紙細工	第 13 回	スポーツレクリエーション	第 14 回	まとめ	第 15 回	実 技 (口 頭) 試 験			第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	陶 芸	第 3 回	クラフトバンド手芸／籐細工	第 4 回	陶 芸	第 5 回	アイロンビーズ	第 6 回	陶 芸	第 7 回	革細工①	第 8 回	陶 芸	第 9 回	革細工②	第 10 回	献立作成	第 11 回	調 理	第 12 回	スポーツレクリエーション	第 13 回	紙細工	第 14 回	まとめ	第 15 回	実 技 (口 頭) 試 験		
	第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	クラフトバンド手芸／籐細工																																																															
第 3 回	陶 芸	第 4 回	アイロンビーズ																																																																
第 5 回	陶 芸	第 6 回	革細工①																																																																
第 7 回	陶 芸	第 8 回	革細工②																																																																
第 9 回	陶 芸	第 10 回	献立作成																																																																
第 11 回	調 理	第 12 回	紙細工																																																																
第 13 回	スポーツレクリエーション	第 14 回	まとめ																																																																
第 15 回	実 技 (口 頭) 試 験																																																																		
第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	陶 芸																																																																
第 3 回	クラフトバンド手芸／籐細工	第 4 回	陶 芸																																																																
第 5 回	アイロンビーズ	第 6 回	陶 芸																																																																
第 7 回	革細工①	第 8 回	陶 芸																																																																
第 9 回	革細工②	第 10 回	献立作成																																																																
第 11 回	調 理	第 12 回	スポーツレクリエーション																																																																
第 13 回	紙細工	第 14 回	まとめ																																																																
第 15 回	実 技 (口 頭) 試 験																																																																		
※一部を除き 2 グループ (A・B)、2 教室に分かれて同時に授業を行います。																																																																			
教科書	長崎重信：『ゴールド・マスター・テキスト作業学第 3 版』MEDICAL VIEW、4,800 円＋税																																																																		
参考書	山根寛：『ひとと作業・作業活動』三輪書店、3300 円＋税 古川宏：『作業活動実習マニュアル』医歯薬出版株式会社、4,000 円＋税 嶋山真弓：『「ものづくり」でリハビリ実践ガイド』学研、3,200 円＋税																																																																		
成績評価の方法・基準	実技 (口頭) 試験 10%、ポートフォリオ 90%																																																																		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・作業によって衣類が汚れる場合があります。動きやすく汚れても良い服装で、授業中はエプロンを着用してください。個人の不得手に関係なく心身の動作経験から学ぶ授業です。積極的に参加しましょう。 ・材料の調達、進行状況により内容が変更する場合があります。 																																																																		
教員紹介	精神領域・老年領域・発達領域を中心に、多種多様な作業体験を通して関わりをもってきました。授業では、対象者に合わせた作業の活用方法について、一緒に考えながら楽しく体験していきましょう。																																																																		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	作業療法管理学 I	清水誠+外部講師	1 単位・15 時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法部門の拡大に伴い業務全体を把握し作業療法部門の管理・運営、関連職種との連携が求められています。本科目では管理・運営等求められる基礎知識を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法部門に関する管理・運営の基礎知識を理解する。 ・ 管理の知識を活かし、問題解決に向き合うことができる。 ・ 管理者の視点より個人情報などの大切さを理解する。 		
授業計画	<p>第 1 回：作業療法部門の管理・運営の概要</p> <p>第 2 回：多職種との連携について</p> <p>第 3 回：医療保険・介護保険について ①</p> <p>第 4 回：作業療法業務（カルテ）について</p> <p>第 5 回： " （リハ計画書）について</p> <p>第 6 回：医療保険・介護保険について ②</p> <p>第 7 回：守秘義務（情報管理）、個人情報保護法について</p> <p>第 8 回：振り返り（レポート提出）</p>		
教科書	特になし（必要に応じ資料を配布します）		
参考書	<p>金谷さとみ他：リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック MEDICAL VIEW 4,000 円+税</p> <p>高木綾一：リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社 CBR 2,800 円+税</p>		
成績評価の方法・基準	講義に関するレポートで評価します。 (ルーブリックを基に点数化します。)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習先の病院勤務の外部講師を招いて、カルテ、リハ計画書の書き方や見方などの説明の他、臨床にまつわるお話もしてもらいます。		
教員紹介	総合病院等で実務経験を持つ教員が、作業療法部門を中心とした管理・運営について講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法 I	清水・横濱・岩田 外部講師	2 単位・60 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の身体状態を知るために必要な評価の仕方・手技を学習、理解する。 各評価の目的、方法を対象者に分かりやすく説明し実施できるようになる。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた各検査・測定項目を選択し、説明できる。 学習した各検査・測定項目を正確に実施することができる。 		
授業計画	<p>第 1 回： オリエンテーション、評価法総論</p> <p>第 2 回： バイタル（脈拍・血圧・呼吸・聴診）</p> <p>第 3 回： 形態測定（四肢長・四肢周径）</p> <p>第 4 回： 関節可動域測定</p> <p>第 5 回： 関節可動域測定</p> <p>第 6 回： 関節可動域測定</p> <p>第 7 回： 関節可動域測定</p> <p>第 8 回： 実技確認試験① ※第 2 回～第 7 回が範囲</p> <p>第 9 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 10 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 11 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 12 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 13 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 14 回： 徒手筋力検査</p> <p>第 15 回： 実技確認試験② ※第 9 回～第 14 回が範囲</p>		
教科書	<p>塩見 泰蔵ほか：リハビリテーション基礎評価学 第 2 版 羊土社、5,900 円＋税</p> <p>福田 修：PT・OT のための測定評価 MMT 頭部・頸部・上肢 第 3 版 三輪書店、4,600 円＋税</p> <p>福田 修：PT・OT のための測定評価 MMT 体幹・下肢 第 3 版 三輪書店、4,000 円＋税</p>		
参考書	<p>長野 重明ほか：作業療法評価法 メディカルビュー社、5,600 円＋税</p> <p>Dale Avers ほか：新・徒手筋力検査法 原著第 10 版 共同医書出版社 7,800 円＋税</p> <p>適宜資料を配布します。</p>		
成績評価の方法・基準	実技確認試験①＋実技確認試験②の合計で評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> 実技中心で展開します。KC 着用、検査道具も各自持参すること。 学習量が非常に多く、授業内だけで技術の習得は困難です。各自、空き時間を利用して実技練習を行って下さい（必要に応じ教員がサポートします）。また自身の振る舞いや、言葉遣いも意識して臨みましょう。 実技教室内は飲食禁止です。ルール厳守をお願いします。 		
教員紹介	<p>総合病院～回復期病院の各身体領域で作業療法士として実務経験をもつ教員が、作業療法評価の手技や関わり方について教授します。</p> <p>また、医療法人社団和風会（所沢リハビリテーション病院）で勤務している作業療法士を招いて授業行っています。</p>		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	相互交流演習 I	中村・横濱	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・対人交流の第一歩として自己開示を実践し、その方法・効果・影響等を考える。 ・学外のボランティア活動に参加することにより、対人援助における基本的態度、連携の取り方、他者との人間関係の築き方について実践的に考える。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解を深めるプロセスにおいて、自己開示が果たす役割と有効性を実感し、実際のコミュニケーションに活かすことができる。 ・地域の活動を通して、今後、自身に必要となる社会性について説明できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>プレゼンテーション</u> パワーポイントを用いて“自分について”のプレゼンテーションを行い、クラスメイトとの交流を図る。 2. <u>ボランティア学習 (1日)</u> 青梅市生涯学習 『釜の淵新緑祭』への参加。 *日時：令和8年5月9日(土) 詳細は後日お知らせします。 		
教科書	特になし (必要に応じて資料を配布)		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	レポート課題		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<p>クラス間や学科教員との交流、地域の方との交流の場を通じて自身の社会性をあらためて考える機会にしてください。</p> <p>特にボランティア学習では積極的に他者と関わり、主体的な行動を意識し参加してください。また、様々な場面に遭遇することが想定されますが、仮に理不尽な態度を示された場合でも感情的にならず「冷静に対応する」、「担当職員や教員にヘルプサインを出す」等の適切な対処を試みる良い経験の場としてください。</p>		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、様々な活動を臨床の場に置き換え、他者との連携に必要なことは何かを適宜指導します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	日常生活活動論	岩田 一鷹	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概念を学び、動作の観察ができるように学習する。 ・観察した動作を点数化できる評価について学習する 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の概論について説明できる。 ・様々な評価の特徴を観察、説明できる。 ・観察した日常生活動作を点数化できる。 		
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション (日常生活活動を考える)</p> <p>第 2 回 日常生活活動総論① (ICIDH・ICF)</p> <p>第 3 回 日常生活活動総論② (基本動作・応用動作)</p> <p>第 4 回 食事動作について</p> <p>第 5 回 整容動作について</p> <p>第 6 回 更衣動作について</p> <p>第 7 回 排泄・入浴動作について</p> <p>第 8 回 起居動作・移動動作・生活関連動作 (実技)</p> <p>第 9 回 環境・福祉用具について①</p> <p>第 10 回 環境・福祉用具について②</p> <p>第 11 回 日常生活評価 ①評価総論</p> <p>第 12 回 日常生活評価 ②評価各論 (Barthel Index、FIM、その他)</p> <p>第 13 回 日常生活評価 ③ //</p> <p>第 14 回 日常生活評価 ④事例を通して評価・点数化を実施</p> <p>第 15 回 期末試験</p>		
教科書	柴 善崇・下田 信明：PT・OTビジュアルテキスト ADL 第 2 版 羊土社 5,200 円+税		
参考書	適宜配布します。		
成績評価の方法・基準	8 回目と 9 回目の間に中間試験を実施します。 中間試験・期末試験の合計で評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	日常生活活動は作業療法士にとって、とても大切な評価項目です。 自分の生活などを通して、柔軟な発想で考えていきましょう。		
教員紹介	約 10 年救急病院や回復期病院にて作業療法を行ってきました。現在も障がい者支援施設にて、発達障害の方々へ ADL のサポートを実施しています。病院や施設、訪問などで勤務しようとも、作業療法士が関わる根本は日常生活活動になります。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1 学年	通年	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	見学実習	作業療法学科教員	1 単位・45 時間
授業の概要 (授業の目的)	通所リハビリテーション施設・訪問リハビリテーション施設における実習を通して、作業療法部門の機能や各部署との連携、また対人援助職としての基本を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法部門の実務内容を説明することができる。 ・ 施設における作業療法士の役割を説明することができる。 ・ 施設における多職種連携について説明することができる。 ・ 医療従事者としての基本的マナーを意識した行動がとれる。 ・ 真摯な姿勢で学び、主体的に行動できる。 ・ 対象者を尊重した態度で接することができる。 		
授業計画	<p>各実習施設において、臨床現場の支援体制や対象者への理解を深めます。事前に行う実習ガイダンス、講義での学びを活かし、各自が主体的な行動をとれるように努めて下さい。</p> <p><実習施設> 通所・訪問リハビリテーション施設</p> <p><実習期間> 5 日間の実習</p> <p>※詳細は事前の「見学実習ガイダンス」にてお伝えします。</p>		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	ポートフォリオ (30%)・学内報告会 (30%)・ 実習後の口頭試問 (40%) にて評価。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者とそのご家族、またご指導頂く各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事にも真摯に主体的に取り組むこと。 ・ 施設の規則に従い、礼節をわきま場に適した行動をとること。 ・ 報告・連絡・相談を徹底する。 ・ 個人情報の取り扱いには十分に配慮する。 ・ 物事に対し常に積極的に学ぶ姿勢をもち、随時必要な行動をとること。 		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、施設指導者と共に、対人援助職として求められる基本的な態度やマナーの実践について指導やサポートをします。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション概論 Ⅲ	中村晃一	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士が臨床の場で求められる面接技術・コミュニケーション技術について、多様化する対象者への具体的な支援方法を理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を展開するにあたり作業療法士として必要な視点とは何か、説明できるようにする。 ・場面や状況により、対象者の支援に必要なコミュニケーション方法を考え、学生なりに実践できるようにする。 		
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション／領域共通の面接法について学ぶ 第 2・3・4 回：作業療法導入のための面接 第 5 回：生活技能訓練の紹介と実践 第 6 回：WRAP の紹介と実践 第 7・8・9 回：大人の発達障害に対するコミュニケーション 第 10・11・12・13 回 院内行事活動を通じた実践と振り返り 第 15 回：まとめ</p>		
教科書	必要に応じてプリントなど資料を配布します。		
参考書	山口美和：第 2 版「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド」医学書院 2,800 円＋税		
成績評価の方法・基準	ポートフォリオをルーブリックに基づき評価する (100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業の後半では精神科病院の院内行事に参加する中で、学習したコミュニケーション技術を実際の対人場面に適用し体験的に学んでもらう機会を作ります。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、作業療法士に求められる視点や思考過程について実践を通して教授します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	小児科学	鈴木 文晴	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	1.小児リハビリテーションの理解 2.上記の学習の基礎となる小児保健および成長発達の学習 3.小児リハビリテーションの中心となる小児神経疾患—脳性麻痺・重症心身障害児・知的障害・自閉症スペクトラム障害・てんかん・筋疾患などの医学的理解。レポート作成の方法に習熟する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	1.上記 1-3 について十分な基礎的知識を身につける 2.将来の on the job training を可能にするため、受け身の学習ではなく、主体的に学習する能力を身につける		
授業計画	第 1 回～ 2 回…小児リハビリテーションの基礎 課題レポートの説明 小児保健統計 国民衛生の動向 社会保障 第 3 回～ 4 回…小児の成長と発達 予防接種 第 5 回～ 6 回…新生児 低出生体重児 脳性麻痺その 1 第 7 回～ 8 回…脳性麻痺その 2 先天異常 21 トリソミー (ダウン症候群) 二分脊椎 第 9 回 …中間試験 第 10 回 …てんかんとてんかん発作 重症心身障害児 (者) 第 11 回～12 回…知的障害 注意欠陥多動性障害 学習障害 自閉症スペクトラム障害 第 13 回～14 回…筋疾患 循環器 呼吸器 児童虐待 視聴覚障害 第 15 回…定期試験 まとめ		
教科書	富田豊編集 標準理学療法・作業療法学 小児科学 第 6 版 医学書院 4,200 円+税		
参考書			
成績評価の方法・基準	中間試験 50 点 (課題レポートを加味する)、期末試験 50 点、合計 100 点 合格点に満たない場合は何回でも再試験になります。		
授業の留意点・授業外の 学習活動など	予習と授業中の活発な意見発表を求めます。		
教員紹介	第 2 北総病院 小児リハビリセンター長 (小児科医)		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎作業学Ⅱ	鎌田小百合	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	作業を効果的に且つ有意義に利用できるようになるために、作業の具体的な活用方法を学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・経験した作業の一般的特徴を理解し、説明することが出来る ・対象者に応じた作業の治療的活用方法を考察し、説明することができる。 		
授業計画	第 1 回 段階付けについて 第 2 回 グループワーク (段階付けの検討) 第 3 回 ディスカッション① 第 4 回 ディスカッション② 第 5 回 適応について 第 6 回 グループワーク (工程分析) 第 7 回 グループワーク (動作分析) 第 8 回 グループワーク (代替法の検討①) 第 9 回 グループワーク (代替法の検討②) 第 10 回 グループワーク (資料作成) 第 11 回 グループ発表① 第 12 回 グループ発表② 第 13 回 グループ発表③ 第 14 回 グループ発表④ 第 15 回 振り返り		
教科書	長崎重信：『ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学 第 3 版』MEDICAL VIEW、4,800 円＋税		
参考書	山根寛：『ひとと作業・作業活動』三輪書店、3300 円＋税		
成績評価の方法・基準	発表 (50%)、		
授業の留意点・授業外の学習活動など	基礎作業学演習で実施した作業を例に、具体的な作業分析を行います。1 年次で学習した作業分析の視点が必要です。		
教員紹介	臨床では精神領域や発達領域を中心に、多くの対象者と多種多様な作業とのつながりに向き合ってきました。作業の使い方は様々ありますが、使用方法に根拠を持つことは重要です。自分なりに説明できることを目指しましょう。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	作業療法評価法Ⅱ	岩田・清水 外部講師	2 単位・60 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の身体状態を知るために必要な評価の仕方・手技を学習する。 各評価の目的・方法を対象者に分かりやすく説明して、実施できるようになる。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた検査、測定項目を選択し、説明ができる。 学んだ各検査、測定項目を実施することができる。 対象者の状態を把握し配慮することができる。 		
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーションと評価法Ⅱ総論</p> <p>第 2 回：脳神経検査 ①</p> <p>第 3・4 回： " ②</p> <p>第 5・6 回：協調性検査</p> <p>第 7・8 回：姿勢反射・バランス検査</p> <p>第 9・10 回：上肢機能検査 (STEF)</p> <p>第 11・12 回：片麻痺機能検査 (BRS、上田法)</p> <p>第 13・14 回：感覚検査、痛みの検査 ①</p> <p>第 15・16 回： " ②</p> <p>【前期：実技確認検査】</p> <p>第 17・18 回：神経心理検査 (JCS、MMSE:意識、認知機能検査)</p> <p>第 19・20 回： " (TMT、FAB 等:前頭葉機能検査)</p> <p>第 21・22 回： " (Benton、三宅式:記銘力検査)</p> <p>第 23・24 回： " (Kohs、RCPM:非言語性知能検査)</p> <p>第 25・26 回： " (BIT 等:注意・無視の検査)</p> <p>第 27・28 回： " (BADS:遂行機能検査)</p> <p>第 29・30 回： " (SPTA:標準高次動作性検査)</p> <p>【後期：定期試験】</p>		
教科書	塩見泰蔵：リハビリテーション基礎評価学 第 2 版 羊土社 6,000 円＋税		
参考書	長野重明ほか：作業療法評価法 メディカルビュー社 5,600 円＋税 田崎義明ほか：ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 7,200 円＋税		
成績評価の方法・基準	実技確認試験 50%と記述試験 50%で評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業内だけではなく各自空き時間を利用して、技術・知識習得に努めてください。積極的な授業参加を希望します。		
教員紹介	病院での臨床経験を持つ教員が作業療法評価の知識・技術を教授します。また病院で勤務している作業療法士を補助教員として授業に参加してもらう予定です。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅲ	中村・庄司・鎌田	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	精神領域における作業療法評価を学ぶ。対象者一人ひとりに寄りそった治療・支援ができるよう、評価を用いて対象者を知るための技術を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を行う意味や目的を説明できる。 ・観察・面接より対象者を評価することができる。 ・評価した内容を適切に記録することができる。 		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：認知症予防講座の振り返り グループ①</p> <p>第3回：認知症予防講座の振り返り グループ②</p> <p>第4回：認知症予防講座の振り返り グループ③</p> <p>第5回：認知症予防講座の振り返り グループ④</p> <p>第6～11回：症例動画（精神領域）を用いた評価（観察と記録）</p> <p>第12・13回：精神科看護における評価</p> <p>第14回：精神領域における認知機能の評価（SCIT・NERA）</p> <p>第15回：まとめ</p>		
教科書	なし（必要に応じてプリントなど配布）		
参考書	必要に応じて適宜紹介します。		
成績評価の方法・基準	ポートフォリオをルーブリックに基づき評価する（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市認知症予防講座での実践や、日本作業療法士協会が制作した動画、精神科シミュレーション学習のDVD等を活用し、精神領域における評価について具体的に学びます。*進行状況に応じて講義スケジュールが、変更になる場合があります。 		
教員紹介	担当教員は、精神科病院等にて臨床経験がある教員であり、それぞれの経験を活かし授業を展開していきます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅳ	作業療法教員 非常勤講師	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	小児・発達、精神、身体領域における評価技術を横断的に習得し、包括的に理解する力を養う。実践的支援能力と専門職連携の基礎を確立する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・小児・発達領域、精神領域の一般的な評価が行える。 ・成人のADL評価、事例を通じ問題点の抽出が行える。 ・評価技法にて学んだ事をより実践的に発展させることができる。 ・多職種連携教育において、事例に対する評価結果や支援計画を言語化し、他職種と共有・意見交換を行うことで、多職種連携の視点を身につける。 		
授業計画	<p>第1回：知能検査（WISC/WPPSI/K-ABC）</p> <p>第2回：DAM(グッドイナフ人物画知能検査)／新版 S-M 社会生活能力検査</p> <p>第3回：DTVP(フロスティググ視知覚発達検査)</p> <p>第4回：Wee FIM/PEDI</p> <p>第5回：ADHD-RS/SNAP/CARS2(小児自閉症評定尺度)</p> <p>第6回：PEP-3(自閉症・発達障害児教育診断検査)</p> <p>第7・8回：精神領域における評価尺度</p> <p>第9回：評価技法</p> <p>第10～16回：評価技法</p> <p>第17・18回：身体領域のICF・FIM（事例を通じて検討・総復習）</p> <p>第19・20回：介助・支援方法（移乗・車いす操作・杖歩行）</p> <p>第21回：多職種連携教育</p> <p>第22～29回：多職種連携教育に向けた個別・グループ学習</p> <p>第30回：定期試験（筆記）</p>		
教科書	なし（必要に応じてプリントなど配布）		
参考書	必要に応じて紹介していく。		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）：各授業範囲が終了後、都度その範囲の試験を実施。 試験範囲：①第1～6回 30点／②7・8回 20点／③17～20回 50点		
授業の留意点・授業外の学習活動など	学生自らが考え、行動する機会が多くなります。時間を無駄にすることがないよう積極的に学習に臨んでください。		
教員紹介	作業療法学科の教員が、それぞれの専門性を活かし臨床での多様な経験に基づいて授業を展開していく。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	演習・グループワーク
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	相互交流演習Ⅱ	鎌田小百合	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	ヘルスプロモーションにおける作業療法の役割を理解する。 作業療法においてグループ活動を円滑に進めるために、作業や集団等の 利用方法について理解し、実践方法を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者、目的に応じた作業内容について説明できる ・時間、場所に考慮して作業内容を検討することができる ・活動を実際に展開することでの気づきを言語化することが出来る 		
授業計画	第 1 回 授業概要説明 第 2 回 認知症サポートについて 第 3 回 ヘルスプロモーションと作業療法 第 4 回 グループ学習 (講座に関する情報収集、講座大枠の検討) 第 5 回 グループ学習 (講座大枠の決定) 第 6 回 グループ学習 (講座詳細検討: 時間配分、道具・材料等) 第 7 回 グループ学習 (グループ内実践、内容修正・検討) 第 8 回 グループ学習 // 第 9 回 グループ学習 (資料作成、説明原稿の確認など) 第 10 回 グループ学習 (グループ内通し練習) 第 11~14 回 グループ発表 第 15 回 振り返り		
教科書	吉川ひろみ ; 「作業」って何だろう 作業科学入門第 2 版, 医歯薬出版株式 会社, 2,800 円 + 税		
参考書	随時紹介		
成績評価の方法・基準	5 つのレポート課題を総合して評価する。 それぞれルーブリックに沿って採点する。		
授業の留意点・授業外 の学習活動など	グループに分かれ、「認知症予防講座」を企画していきます。 出来上がった企画は、青梅市役所で市民を対象に実践します (9~10 月予 定)。病気や障害への対応だけでなく、健康促進に関わる作業療法について 積極的に考えていきましょう。		
教員紹介	10 年以上青梅市社会教育課と連携した取り組みを行っている教員が主に 担当します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学 I	横濱 秀征	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	各疾患の症状を理解し、作業療法を実施するための考え方を身に着ける。 臨床でコミュニケーションがとれるよう、専門用語を身に着ける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各疾患の症状を列記できる。 各疾患の重症度、進行度などを評価するスケールを列記できる。 各疾患に対して、作業療法を実施するための考え方を説明できる。		
授業計画	<p>第 1 回： 導入、廃用症候群</p> <p>第 2 回： 脳血管障害（総論）</p> <p>第 3 回： 脳血管障害（錐体路障害について）</p> <p>第 4 回： 脳血管障害（時期別の作業療法について）</p> <p>第 5 回： 脳血管障害（治療介入・援助方法）</p> <p>第 6 回： パーキンソン病（総論）</p> <p>第 7 回： パーキンソン病（治療介入・援助方法について）</p> <p>第 8 回： 小脳失調（終了後、中間試験実施）</p> <p>第 9 回： 脊髄損傷（総論）</p> <p>第 10 回： 脊髄損傷（治療介入・援助方法について①）</p> <p>第 11 回： 脊髄損傷（治療介入・援助方法について②）</p> <p>第 12 回： 末梢神経障害（総論）</p> <p>第 13 回： 末梢神経障害（各論）各絞扼性障害 腕神経叢等</p> <p>第 14 回： 末梢神経障害（各論）末梢神経障害による変形手</p> <p>第 15 回： 定期試験</p> <p style="text-align: center;">*小脳失調が終わった時点で、中間試験を実施します。</p>		
教科書	長崎重信：「作業療法ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学」 [Web 動画付き] 第 3 版 メジカルビュー社、5,600 円＋税 その他：随時、資料を配布します。		
参考書	菅原洋子：「作業療法学全書 第 4 巻 作業療法 1 身体障害」 (協同医書出版) 3800 円＋税 田崎ら：『ベッドサイドの神経の診かた』改訂 18 版 (南山堂) 7,200 円＋税		
成績評価の方法・基準	中間試験 50%、定期試験 50%で評価を行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	解剖・運動・生理学の基礎知識が必要となってきます。 しっかり復習して授業に臨んでください。		
教員紹介	回復期病棟にて身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、各疾患に対する作業療法介入についてを教授します。 質問等あれば、 h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習 I	横濱秀征	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	身体障害領域で行う作業療法を実施するための理論を学び、基礎的治療介入技術を実施できるようになる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法介入の原理が説明できる。 ・疾患特徴を捉えた治療選択ができる。 ・評価、分析のクリニカルリーズニングを説明できる。 		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション・クリニカルリーズニング 第 2 回： 作業療法導入について 第 3 回： 関節可動域訓練① 第 4 回： 関節可動域訓練② 第 5 回： 関節可動域訓練③（実技） 第 6 回： 筋力強化訓練① 第 7 回： 筋力強化訓練② 第 8 回： 筋力強化訓練③（実技） 第 9 回： 脳血管障害の作業療法① 第 10 回： 脳血管障害の作業療法② 第 11 回： 神経筋促通法 第 12 回： 運動失調に対するアプローチ 第 13 回： スプリント療法 第 14 回： 腱損傷の作業療法 第 15 回： 授業まとめ・期末試験		
教科書	長崎 重信：「作業療法ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学」 [Web 動画付き] 第 3 版 メジカルビュー社、5,600 円＋税 その他：随時、資料を配布します。		
参考書	市川和子：「標準作業療法 臨床実習ケーススタディ」医学書院、4,200 円＋税 潮見ほか：「リハビリテーション基礎評価学 第 1 版」羊土社、5,900 円＋税		
成績評価の方法・基準	課題レポート 20% 期末試験 80% ※課題レポートは MTDL P 形式でループリックを用いて採点を行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	治療対象となる各疾患を、しっかり復習して臨んでください。		
教員紹介	回復期病棟にて身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、各疾患に対する作業療法介入についてを教授します。 質問等あれば、 h.yokohama@tama-riha.ac.jp まで。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	作業療法治療学Ⅱ	鎌田小百合	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	精神科領域での作業療法が展開できるようになるために、精神科の現状を踏まえたうえで、代表的な疾患の特徴を押さえ、作業療法としての援助の仕方を学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の精神科医療の現状と課題について説明できる ・代表的な精神疾患の状態像が説明できる ・各疾患に対する作業療法の目的と関わり方について説明できる 		
授業計画	<p>第1回 障害、回復の捉え方</p> <p>第2回 精神 OT 関連の歴史</p> <p>第3回 精神科作業療法の現状と課題</p> <p>第4回 統合失調症に対する作業療法（急性期）</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 統合失調症に対する作業療法（地域移行支援）</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 統合失調症に対する作業療法（地域生活支援）</p> <p>第9回 気分障害に対する作業療法（うつ病相）</p> <p>第10回 気分障害に対する作業療法（躁病相）</p> <p>第11回 神経症性障害に対する作業療法</p> <p>第12回 パーソナリティ障害に対する作業療法</p> <p>第13回 摂食障害に対する作業療法</p> <p>第14回 依存症に対する作業療法</p> <p>第15回 定期試験</p>		
教科書	香山明美ほか：『精神障害作業療法・急性期から地域実践まで-』医歯薬出版株式会社、3,900 円＋税		
参考書	山根寛：『精神障害と作業療法新版』三輪書店、4,000 円＋税 早坂友成他：精神科作業療法の理論と技術、メジカルビュー社、4,200 円		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業の区切りで確認問題を提示します。不明点はそのままにせず教科書等で振り返ってください。		
教員紹介	精神科病院で臨床業務をしていた頃のエピソードを織り交ぜながら講義をしていきます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習Ⅱ	庄司麻美	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	対象者中心の視点で寄り添うために、対象者の生活上のしづらさを捉え、作業療法士として具体的な支援方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法介入に必要な評価の視点が理解できる。 ・ 評価情報を整理し、具体的な支援展開の枠組みが理解できる。 ・ 作業療法の役割や治療構造を理解し、多角的な支援方法が検討できる。 ・ 対象者に適した介入計画について考え、相談ができる。 		
授業計画	<p>第 1 回：精神領域における作業療法 第 2 回：作業療法のプロセス（観察） 第 3 回： " （面接） 第 4 回： " （評価） 第 5 回：作業療法の治療構造 第 6 回：事例検討① 第 7 回： " ② 第 8 回： " ③ 第 9 回： " ④ 第 10 回：作業療法の効果と根拠 第 11 回：介入計画と導入 第 12 回：介入の実際と展開 第 13 回：評価の整理 第 14 回：情報から捉える全体像 第 15 回：定期試験</p>		
教科書	香山明美 他「精神障害作業療法 第 3 版」 医歯薬出版 4,200 円＋税		
参考書	山根 寛：「精神障害と作業療法 新版」 三輪書店、4,000 円＋税 市川和子：第 2 版「標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ」 医学書院 3,800 円＋税 他		
成績評価の方法・基準	実技課題 40%、小テスト 40%、筆記試験 20%		
授業の留意点・授業外の 学習活動など	精神医学Ⅰ・Ⅱ、作業療法治療学Ⅱの知識を基盤とします。 演習を通して、自ら考える機会を積極的に重ねていきましょう。		
教員紹介	精神科病院で作業療法士の実務経験をもつ教員が、作業療法における対象者と寄り添う視点、様々な作業療法の展開方法について講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学Ⅲ	林 義巳	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の正常発達、原始反射や立ち直り反応・平衡反応を理解する。 ・上記の正常発達に沿って、指導・援助を考える。 ・紹介する障害の特徴や評価・治療（援助）を理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の粗大運動や巧緻運動等の発達の順番を説明できる。 ・乳幼児の原始反射・立ち直り反応・平衡反応について説明できる。 ・手の機能について、握り・つまみ・手内操作の説明ができる。 ・運動発達が遅れている子どもたちのアプローチを考案できる。 		
授業計画	<p>第1回 小児 OT の意義と目標</p> <p>第2回 発達理論・発達指標①遠城寺式乳幼児分析的発達検査を中心に</p> <p>第3回 手の発達、原始反射①</p> <p>第4回 原始反射②、立ち直り反応・平衡反応</p> <p>第5回 平衡反応、まとめ</p> <p>第6回 発達指標②</p> <p>第7回 子どもの遊び</p> <p>第8回 振り返り、中間試験</p> <p>第9回 乳児の発達 0～6 か月</p> <p>第10回 乳児の発達 6～12 か月</p> <p>第11回 手の機能①「握り・つまみの発達、手内操作」</p> <p>第12回 手の機能②「両手動作：スプーン、折り紙、雑巾しぼり等」</p> <p>第13回 ダウン症等の染色体異常</p> <p>第14回 Duchenne 型筋ジストロフィー症</p> <p>第15回 振り返り、定期試験</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・資料配布、動画視聴 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・M.R.Fiorentino 著、小池文英訳、「脳性麻痺の反射検査 第2版 早期診断と治療の手がかり」医歯薬出版(株)、2,258 円 ・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野臨床医学、医歯薬出版、5,060 円 		
成績評価の方法・基準	中間試験と定期試験(期末試験)の平均点で成績評価をします。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	正常発達を学び、障がい児の指導に繋がっていきます。運動発達課題では、訓練プログラムを考案します。基礎になるのは、前半の授業です。しっかり学んで下さい。		
教員紹介	作業療法士として 40 年働いています。スタートは 0 歳から就学までの子どもがお母さんと通う肢体不自由児通園施設でした。教員になってからは知的障害の小学生を中心に東京都立の特別支援学校の外部専門員として 10 年以上活動を続けています。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習Ⅲ	林 義巳	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳性麻痺のタイプ別特徴を捉え、動作分析をもとに作業療法のポイントを検討する。 ・ 感覚統合の考え方を理解する。 ・ 発達障害児のアプローチについて理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳性麻痺のタイプや特徴を説明できる。 ・ 姿勢変換のハンドリングが理解できる。 ・ 感覚統合の理論・評価・訓練が説明できる。 ・ 小児疾患の特徴を理解し、作業療法アプローチについて検討できる。 ・ 療育施設・特別支援学校における指導について理解する。 		
授業計画	<p>第 1 回 脳性麻痺の作業療法 (痙直型両麻痺の講義)</p> <p>第 2 回 脳性麻痺の作業療法 (アテトーゼ型の講義)</p> <p>第 3 回 脳性麻痺の作業療法 (失調型・痙直型片麻痺の講義)</p> <p>第 4 回 脳性麻痺の作業療法 (実技①)</p> <p>第 5 回 脳性麻痺の作業療法 (実技②)</p> <p>第 6 回 重症心身障害児の作業療法</p> <p>第 7 回 脳性麻痺の作業療法 (まとめ)</p> <p>第 8 回 振り返り、中間試験</p> <p>第 9 回 発達障害の特徴、診断基準</p> <p>第 10 回 感覚統合理論、感覚統合発達記録等</p> <p>第 11 回 感覚統合臨床観察、行為検査等</p> <p>第 12 回 感覚統合の治療訓練</p> <p>第 13 回 発達障害 考え方と支援方法</p> <p>第 14 回 発達障害の指導 (書字・お箸、こんな時どうする?)</p> <p>第 15 回 振り返り、期末試験</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料配布、動画視聴 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ EVA BOWER 編著「脳性まひ児の家庭療育」医歯薬出版、4,620 円 ・ 木村順監修「遊んでいるうちに手先が器用になる！発達障害の子の指遊び手遊び腕遊び」講談社、1,650 円 		
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験の平均点で成績評価を行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講堂で行う実技は、触り方や正常動作の視点を学びます。自分の体ができるように動くのかを感じて、話の内容を書き留めて下さい。体操着 (ズボン) への着替えをお願いします。		
教員紹介	作業療法士として 40 年働いています。スタートは 0 歳から就学までの子どもがお母さんと通う肢体不自由児通園施設でした。教員になってからは知的障害の小学生を中心に東京都立の特別支援学校の外部専門員として 10 年以上活動を続けています。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学Ⅳ	林・清水・中村・横濱	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的老化について理解する。 ・高齢者の特有の疾患を理解する。 ・高齢者特有の疾患に対する作業療法を理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的老化について説明できる。 ・高齢者特有の疾患の特徴を説明できる。 ・高齢者特有の疾患に対する作業療法を説明できる。 		
授業計画	第1回： 総論（老化について）／癌のリハビリテーション 第2回： 認知症の作業療法① 第3回： 認知症の作業療法② 第4回： 認知症の作業療法③ 第5回： 認知症の作業療法④ 第6回： 認知症の作業療法⑤ 第7回： 高齢者の4大骨折① 第8回： 高齢者の4大骨折② 第9回： 高齢者の4大骨折③ 第10回： 高齢者の4大骨折④ 第11回： 高齢者の循環器疾患① 第12回： 高齢者の循環器疾患② 第13回： 高齢者の呼吸器疾患 第14回： 高齢者の泌尿器疾患 第15回： 振り返り（定期試験）		
教科書	資料配布		
参考書	随時紹介します。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100点満点）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	人は病気にならなくても生理的に機能・能力が低下し、病気になることでさらに機能・能力が低下し、社会参加ができなくなります。予防医学を考えるためにも必要不可欠な科目です。しっかりと学んでください。		
教員紹介	作業療法学科教員が高齢者を対象とした臨床経験を活かし、各教員の専門領域を担当します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	日常生活活動演習	岩田 一鷹	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動論で学んだ知識を基に、疾患別の ADL の特徴を学ぶ。 ・日常生活に対する作業療法士の関わり、手技を習得する。 ・事例検討を通じ、意見を他者へ伝える技能を養う。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患別の動作手順について説明できる。 ・問題点から作業療法プログラムを計画できる。 ・日常生活動作に対する作業療法士の関わりを説明できる。 		
授業計画	<p><前期></p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 パーキンソン病の ADL①</p> <p>第 3 回 パーキンソン病の ADL②</p> <p>第 4 回 呼吸器疾患の ADL①</p> <p>第 5 回 呼吸器疾患の ADL②</p> <p>第 6 回 関節リウマチの ADL①</p> <p>第 7 回 関節リウマチの ADL②</p> <p>※個別症例レポート課題</p> <p><後期></p> <p>第 8 回 災害発災後の ADL</p> <p>第 9 回 下肢骨折の ADL</p> <p>第 10 回 脳血管疾患の ADL①</p> <p>第 11 回 脳血管疾患の ADL②</p> <p>第 12 回 脳血管疾患の ADL③</p> <p>第 13 回 脊髄損傷の ADL①</p> <p>第 14 回 脊髄損傷の ADL②</p> <p>第 15 回 症例事例発表 (グループ発表)</p>		
教科書	資料を配布します。		
参考書	柴 善崇・下田 信明：PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第 2 版 羊土社 5,200 円+税		
成績評価の方法・基準	レポート・事例発表にて評価します。 各評価基準についてはルーブリックを用います。初回授業に説明します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・臨床現場でも必須となる分野となります。自主的に様々な文献から学び幅広い知見を得るようにしましょう。		
教員紹介	身体領域 (脳血管、整形外科、呼吸器、がんを主に担当しておりました) での作業療法経験を踏まえ、皆さんに各疾患に対する ADL の特徴や考え方を、私の経験も交えながら教授します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	高次神経学	清水 誠 言語聴覚学科教員	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・臨床でも高次脳機能障害に対する作業療法の重要度が増してきている高次脳障害の評価方法、症状を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各症状の特徴を説明できる。 ・各症状がどのようなメカニズムで出現するのかを説明できる。 ・各症状に対しての評価を選択することができる。		
授業計画	第 1 回：高次脳機能障害とは（概論） 第 2 回：脳の側性化・局在性、各脳葉の働きについて 第 3 回：高次脳機能評価 ①（情報収集と脳機能について） 第 4 回： // ②（CT・MRI 画像について） 第 5 回：各論：覚醒、注意障害について 第 6 回：各論：記憶障害について 第 7 回：各論：遂行機能障害について 第 8 回：各論：失行症について ① 第 9 回：各論： // ② 第 10 回：各論：失認症について ① 第 11 回：各論： // ② 第 12 回：各論：失語症について ① [言語聴覚学科教員による] 第 13 回：各論： // ② // 第 14 回：各論：半側空間無視等について 第 15 回： 定期試験とまとめ		
教科書	適宜資料を配布します。		
参考書	石合純夫：高次脳機能障害学 第 3 版 医歯薬出版 4,500 円＋税 本田哲三：高次脳機能障害のリハビリテーション 第 3 版 医学書院 4,200 円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート課題（30%）と定期試験（70%）で評価します。 (レポート課題は、ルーブリックを基に評価します。)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	作業療法評価法Ⅱの高次脳機能評価に必要な知識となります。資料・参考書を基に学習に努めてください。		
教員紹介	総合病院で作業療法士として臨床に携わってきた教員が、現場の経験や知識を織り交ぜながら授業をおこないます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	義肢装具学	緑川 潤一	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションや日常生活において、障害を軽減または代償するために用いられる義肢や装具の役割、必要性を理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢や装具の構成要素の名称や種類および機能が理解できる。 ・症例ごとに必要な義肢や装具を選択できる。 		
授業計画	<p>授業では、治療や日常生活において用いられる、義肢や装具について教科書だけでなく、実際に義肢や装具を用いて、見て、触れて授業を進めていきます。</p> <p>第 1 回 義肢学概論 第 2 回 義肢装具材料学 第 3 回 切断について 第 4 回 義手の構成要素 (種類・機能) 第 5 回 義手 (前腕義手・適合判定) 第 6 回 義手 (上腕義手・適合判定) 第 7 回 義足 (下腿・大腿義足など) 第 8 回 膝継手・義足足部 第 9 回 義足のアライメント調整 第 10 回 その他の義足 第 11 回 装具学概論 第 12 回 体幹装具 (種類・適応疾患など) 第 13 回 上肢装具 (種類・適応疾患など) 第 14 回 下肢装具 (種類・適応疾患など) 第 15 回 定期試験 まとめ</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・古川宏編集：作業療法学全書 改訂第 3 版 『第 9 巻 義肢装具学』 協同医書出版社 3,200 円＋税 ・プリント随時配布 		
参考書	特にありません		
成績評価の方法・基準	定期試験 100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	義肢や装具の種類、構成部品等、覚えることが非常に多いので、必ず復習をしてください。		
教員紹介	義肢装具士		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	生活環境論	林 義巳 清水誠・横濱秀征	2 単位・60 時間
授業の概要 (授業の目的)	<p>・生活環境論では、作業療法士になった際に、患者様やご家族から福祉機器や住宅改修の相談を受けて、その障害に合った提案ができるように学習を進めていきます。</p> <p>・将来の患者様が、自立した生活を送れるように、自助具の提案ができる能力を身につけます。購入できる市販品だけでなく、障害に合った自助具・スプリントを自分で考案できることを目的としています。</p>		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<p>・福祉機器の名称や使用方法を説明できる。</p> <p>・住宅改修する際のポイントや注意点を説明できる。</p> <p>・障害に適した自助具を選ぶことができる。</p> <p>・福祉住環境コーディネーター3 級試験の検定試験を受験し合格する。</p>		
授業計画	<p>第1回 少子高齢化の現状、介護保険</p> <p>第2回 バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>第3回 移動・移乗のための福祉用具</p> <p>第4回 杖歩行、車椅子</p> <p>第5回 起居・就寝・排泄・入浴のための福祉用具</p> <p>第6回 コミュニケーションのための福祉用具</p> <p>第7回 ベッドと車椅子、移乗動作</p> <p>第8回 文字盤、BFO</p> <p>第9回 住まいの整備のための基本技術</p> <p>第10回 屋外移動・外出、屋内移動</p> <p>第11回 排泄、整容の住環境</p> <p>第12回 入浴、清掃・洗濯の住環境</p> <p>第13回 調理、起居・就寝の住環境</p> <p>第14回 前期まとめ</p> <p>第15回 振り返り、定期試験</p>	<p>第1回 ガイダンス、間取り図</p> <p>第2回 住環境整備の検討①</p> <p>第3回 住環境整備の検討②</p> <p>第4回 住環境の国試問題</p> <p>第5回 自助具について</p> <p>第6・7回 国際福祉機器展参加 (10/7(水)～10/9(金))</p> <p>第7回 一般職業適性検査等</p> <p>第8回 一般職業適性検査等</p> <p>第9回 福祉機器展 発表</p> <p>第10回 福祉機器展 発表</p> <p>第11回 まとめ試験</p> <p>第12回 自助具 発表会①</p> <p>第13回 自助具 発表会②</p> <p>第14・15回 スプリント作成</p>	
教科書	「福祉住環境コーディネーター検定試験 3 級公式テキスト改訂 7 版」、東京商工会議所、3,300 円		
参考書	・特になし		
成績評価の方法・基準	前期試験 50%、後期試験 30%、福祉機器発表 10%、自助具発表 10%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<p>・前期は教科書中心です。教科書とマーカー等の準備をお願いします。</p> <p>・具体的な患者像を設定し、自助具を考案してください。</p>		
教員紹介	住宅改修を行うため、保健師と患者様の自宅を訪問し、ご本人家族の意向を聞きながら、建築業者と打ち合わせをした経験があります。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	講義・グループワーク
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	地域作業療法学	鎌田・中村 非常勤講師	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域リハビリテーションの概念について理解する。 ・ 地域における基本的な作業療法について理解する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。 ・ 地域作業療法を支える制度について説明できる。 ・ 実践の場に応じた作業療法について説明できる。 		
授業計画	<p>第 1 回 地域リハビリテーションの経緯と理念 第 2 回 作業療法士が求められている地域の場 第 3 回 地域包括ケアシステム 第 4 回 地域生活と評価の視点 第 5 回 身体領域における地域支援の実際① 第 6 回 身体領域における地域支援の実際② 第 7 回 身体領域における地域支援の実際③ 第 8 回 身体領域における地域支援の実際④ 第 9 回 高齢者領域における地域支援の実際① 第 10 回 高齢者領域における地域支援の実際② 第 11 回 精神領域における地域支援の実際① 第 12 回 精神領域における地域支援の実際② 第 13 回 就労にかかわる支援 第 14 回 医療観察法にかかわる支援 第 15 回 レポート課題</p>		
教科書	特になし		
参考書	小林法一、小林隆司：作業療法学講座 地域作業療法学、医歯薬出版、4,400 円＋税 長崎重信：ゴールド・マスター・テキスト地域作業療法学、MEDICAL VIEW、4,000 円＋税		
成績評価の方法・基準	担当教員毎にレポート提出 ルーブリックに沿って評価します		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業地域支援はそれぞれの地域特性に合わせて考えていく必要があります。自分の住んでいる地域や興味のある地域には、医療福祉に関してどのような制度・施設があるのか関心を持つてみるとよいです。		
教員紹介	各領域で地域支援を担った教員が実際の経験を踏まえて講義します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	前期	演習・グループワーク
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	生活行為向上 マネジメント演習	鎌田小百合	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活行為向上マネジメント (MTDLP) について理解する		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MTDLP の背景について説明できる ・ MTDLP の用語について説明できる ・ MTDLP の考え方を理解し、検討した事例について説明できる 		
授業計画	<p>第 1 回 MTDLP 概論① (背景・理論的位置づけ)</p> <p>第 2 回 MTDLP 概論② (考え方)</p> <p>第 3 回 MTDLP 概論③ (シート解説-聞き取りシート等)</p> <p>第 4 回 MTDLP 概論④ (シート解説-アセスメント演習シート等)</p> <p>第 5 回 MTDLP 概論⑤ (シート解説-プラン演習シート等)</p> <p>第 6 回 事例報告より MTDLP の考え方を理解する</p> <p>第 7 回 中間試験</p> <p>第 8～15 回 事例検討</p>		
教科書	日本作業療法士協会編著：『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント』、医歯薬出版株式会社、4,000 円＋税		
参考書	世界保健機関：ICF 国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-、中央法規 3,500 円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記テスト 50%、レポート 50% レポートはルーブリックに沿って採点します		
授業の留意点・授業外の学習活動など	MTDLP は実習でも使用します。実践で活用できるように、まずはこの授業で概要理解ができるように努めてください。		
教員紹介	MTDLP 実践者研修修了した教員が概要説明をします。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2 学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	評価実習	各評価実習施設指導者 作業療法学科教員	5 単位・225 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者の指導の下、対象者の全体像ならびに生活障害を捉える。 ・作業療法士としての評価計画の立案、実施、情報の整理、記録等の一連について思考過程を学ぶ。 ・指導者の業務の一助を経験することで、他職種連携や臨床技能を学ぶ。 ・臨床で学んだ作業療法思考過程について、口頭及び紙面上で経験を説明し、自己課題を客観的に整理する。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職としての基本的態度を意識し実践できる。 ・学生として常に関心を持ち、進んで学ぶ姿勢が維持できる。 ・実習中に携わる関係者と真摯に向き合い、望ましい関係を構築できる。 ・作業療法に必要な情報収集及び評価の選択ができる。 ・対象者に即した作業療法評価について経験を通して理解ができる。 ・日々の実習内容について適切な表現で記録にまとめ、説明できる。 ・自身に必要な課題に気付き、進んで自己学習ができる。 		
授業計画	<p>【実習期間】※詳細は後日お知らせします。 7 月末～8 月中旬, 1 月中旬～2 月上旬</p> <p>【実習時間】※Ⅰ期、Ⅱ期は臨床実習施設で行う。 Ⅰ期 (1 単位 : 45 時間) Ⅱ期 (3 単位 : 135 時間)</p> <p>実習前後評価 (1 単位 : 45 時間) ※予定する必須日程に必ず参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的臨床技能試験 ・実習報告書、口頭試問、報告会 <p>※実習前後の思考過程や情報の整理を学科教員が個別で担当します。</p>		
教科書	特になし		
参考書	各自必要と思われるものを持参すること。		
成績評価の方法・基準	Ⅰ期Ⅱ期の各臨床実習経験後、教員による実習前後評価（客観的臨床技能試験・実習報告書・口頭試問・報告会にて総合的に判断します。 ※詳細は別途説明します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けた事前準備、実習後の振り返りをしっかり行う。 ・臨床現場では各実習施設の規則に従い、礼節をわきまえて行動する。 ・一人で抱え込まず、実習指導者及び学科教員に相談する視点をもつこと。 		
教員紹介	厚労省が指定した臨床実習指導者講習会等を終了した、臨床経験 5 年目以降の作業療法士による指導のもと、現場の知識や技術を指導します。また、学科教員が個別に担当し、有意義な実習になるよう支援します。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎分野演習	鎌田小百合	4 単位・120 時間
授業の概要 (授業の目的)	医療・福祉の専門職として必要となる基礎医学・臨床医学についての理解を深める		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各分野での医学知識を理解し、専門用語を用いて説明することができる		
授業計画	<p>【基礎医学分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学 ・生理学 ・運動学 <p>【臨床医学分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理学 ・神経内科学 ・整形外科学 ・内科学 ・精神医学 ・臨床心理学 ・人間発達学 ・リハビリテーション概論 		
教科書	<p>① 理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野基礎医学 2027、医歯薬出版、4,400 円＋税</p> <p>②理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野臨床医学 2027、医歯薬出版、4,400 円＋税</p>		
参考書	これまでで使用した教科書、資料など		
成績評価の方法・基準	筆記試験 (100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業開始前までに予定表を配布します。予習・復習などの自己学習を徹底的に行ってください。		
教員紹介	身体領域、精神領域、高齢者領域、発達領域、すべての領域にわたりアドバイスができるように、それぞれの領域で臨床経験のある基幹教員が授業に関わります。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	作業療法管理学Ⅱ	林・鎌田・清水	1 単位・15 時間
授業の概要 (授業の目的)	臨床現場の変化に伴ない知識・技術の自己研鑽のみならず、後輩育成や業務・運営に関するスキルも求められるようになった。卒後臨床家としてのキャリア・デザインの重要性、価値観についても学習し、今後に生かしてもらいたい。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法部門の運営に関するリスク管理の基礎知識を習得する。 ・ 多職種連携や卒後教育の重要性を理解する。 ・ 臨床家としてのキャリア・デザインについて考察する。 		
授業計画	<p>第 1 回：ヒューマンエラーについて (インシデント、アクシデントレポートなど)</p> <p>第 2 回：労務管理について (人権保障とハラスメント、勤務体制と労働時間など)</p> <p>第 3 回：多職種連携、地域連携について 卒後のキャリア・デザインについて</p> <p>第 4、5、6 回：東京都作業療法学会への参加 令和 8 年 7 月 5 日 (日) 杏林大学/井の頭キャンパス</p> <p>第 7 回：卒後教育 (自己研鑽と職能団体の活用) 日本作業療法士協会 生涯学修制度など</p> <p>第 8 回：振り返り (レポート提出)</p>		
教科書	特になし (必要に応じ資料を配布します)		
参考書	斉藤秀之、能登真一：リハビリテーション管理学 医学書院 3,600 円+税 大町かおり、高木綾一：リハビリテーション職種のキャリア・デザイン 株式会社 CBR 2,800 円+税		
成績評価の方法・基準	提出されたレポートで評価します。 (ルーブリックを基に点数化します。)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	作業療法士としての今後の働き方に影響する授業です。学生の視点での都学会の参加も新しい刺激となるはずです。		
教員紹介	病院等で実務経験を持つ教員が、作業療法部門の管理・運営、後輩育成について講義します。都土会役員の教員が生涯学修制度などを含めキャリアデザインに影響する情報を伝えます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	専門分野演習	鎌田小百合	4 単位・120 時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法士として必要となる専門知識について造詣を深め、自らの作業療法士像の構築を図る		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各分野での専門的知識を理解し、専門用語を用いて説明することができる		
授業計画	<p>【専門分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法概論 ・基礎作業学 ・作業療法評価 ・身体領域作業療法 ・精神領域作業療法 ・発達領域作業療法 ・高齢期領域作業療法 ・関連法規、制度 		
教科書	<p>① 理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント基礎 OT 学 2027、医歯薬出版、4,400 円＋税</p> <p>② 理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント障害別 OT 治療学 2027、医歯薬出版、4,400 円＋税</p>		
参考書	これまでに使用した教科書、資料など		
成績評価の方法・基準	定期試験 (100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業スケジュールは、授業開始前までに予定表を配布します。予習復習などの自己学習を徹底的に行ってください。		
教員紹介	身体領域、精神領域、高齢者領域、発達領域、すべての領域にわたりアドバイスができるように、それぞれの領域で臨床経験のある基幹教員が授業に関わります。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3 学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	臨床実習ケーススタディ	作業療法学科教員	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・実習で関わった対象者に対する作業療法内容について理解を深める		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が関わった事例について MTDLP を用いて整理できる ・事例に対する情報の過不足が確認できる ・自分が整理した内容を他者に報告することができる 		
授業計画	<p>第 1・2 回：授業概要、臨床実習課題確認、事例の確認 第 3・4 回：事例検討（ICF 整理、課題分析） 第 5・6 回：事例検討（予後予測、優先順位の検討） 第 7・8 回：事例検討（目標設定） 第 9・10 回：事例検討（プログラム検討） 第 11・12 回：事例検討（まとめ資料作成） 第 13・14 回：クラス内報告会 第 15 回：1・2 年生報告会</p>		
教科書	特になし		
参考書	適宜紹介する		
成績評価の方法・基準	MTDLP 各シート 50%、クラス内報告会 25%、1・2 年生報告会 25% それぞれルーブリックに沿って採点します		
授業の留意点・授業外 の学習活動など	疑問点や気づきなどを積極的に伝えていく姿勢が必要です。 MTDLP を用いて作業療法の思考過程を確認します。MTDLP の活用について事前学習をして臨んでください。		
教員紹介	各教員が実習先と密に連絡を取り合いながら、有意義な実習になるよう支援していきます。		

2026年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3 学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	各臨床実習施設指導者 作業療法学科教員	各 9 単位・405 時間
授業の概要 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習指導者の指導の下、対象者の作業療法（評価・治療）を経験し、その記録・方法など、作業療法士としての一連の流れを習得する。 ・ 臨床現場における作業療法士としての役割と機能を学ぶ。 ・ 作業療法士としての管理・運営業務を学ぶ。 ・ 医療人、職業人としての態度を身につける。 ・ 実習で学んだ一連の作業療法アプローチを報告し、教員や他学生よりフィードバックを受けることで、卒後の臨床に繋がるよう理解を深める。 		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療人、職業人として適切な態度を身につけ、行動できる。 ・ 作業療法士の役割を認識できる。 ・ 対象者の状態に沿った評価・治療を体験する。 ・ 対象者について適切に報告（口頭・記録）ができる。 ・ 対象者の状態、環境に配慮することができる。 ・ 対象者の変化を把握し、対応できる。 ・ 施設指導者や教員のアドバイスを受け、資料作成ができる。 ・ 適切な枠組み（書式・報告時間など）に基づき、真摯な態度で報告できる。 		
授業計画	<p>[9 週間を 2 期] 5 月～7 月Ⅰ期 7 月～9 月Ⅱ期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の期間で医療機関において評価・治療を体験する。 ・ 経験した事について、「デイリー／模擬カルテ」に記録、報告する。 ・ 実習指導者より指導を受ける機会を持つ。 ・ 学内にて報告する機会を持つ。 		
教科書	各自必要と思われるものを持参すること。		
参考書	各自必要と思われるものを持参すること。		
成績評価の方法・基準	実習中のデイリーノート（25%）、実習報告書（25%） 担当教員との口頭試問（50%） それぞれルーブリックに沿って採点します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	各実習先の規則に従い、指導者および対象者に敬意を払い行動すること。		
教員紹介	実習施設では臨床経験 5 年以上の指導者（臨床実習指導者講習会修了者）、学内では作業療法学科教員が個別に担当します。		